

## 児童が五感で炎を観察 出張授業で初“火育”プログラム



京葉ガスは、地域の小中学校向けの出張授業に今年度から新たなプログラム「ものの燃え方と炎のチカラ」を導入し、初めての授業をこのほど松戸市立横須賀小学校（杉山俊郎校長）で行いました。

【写真】ブンゼンバーナーでダイコンをあぶり、すすの付き具合を確認する児童＝5月21日、松戸市立横須賀小学校

「ものの燃え方と炎のチカラ」は、火を扱う機会が減った子供たちに火の効力や使用上の注意などを理解してもらおうと企画し、今年度（4月）から導入したものです。主に小学校6年生を対象にしています。

環境に配慮しながらコンロを使って調理などを行う「エコ・クッキング(※)」に対し、新プログラムはいわゆる“火育”に主眼を置いたもので、マッチやろうそく、ブンゼンバーナー、ガスコンロを用いて炎の特徴を観察したりする実習が中心の内容です。

今回は5月21日、同校6年生の3クラス95人を対象に、クラスごとに45分の授業を行いました。冒頭にプロジェクターを使い、物が燃えるためには「燃える物」「熱」「酸素」の3つが欠かせず、酸素（新鮮な空気）が不足した場合はすすや有害な一酸化炭素が発生してしまうことなどを説明し、火を扱う際には十分な換気が必要であると呼びかけました。

実習に移ると児童たちはマッチなどを使いブンゼンバーナーに着火させ、定規で炎の長さを測定したり、上方に手をかざして炎の温度を体感するなどしました。続いてブンゼンバーナーとろうそくでダイコンをあぶり、すすの付き具合を比較。時間に余裕があったクラスではコンロでのせんべい焼きに挑戦し、教室内はしょうゆの焦げた香ばしいにおいに包まれました。

「ブンゼンバーナーの使い方が難しかった」という声が上がりましたが、参加した多くの児童が実習では目を輝かせ、「面白かった」「説明が分かりやすかった」と感想を話しました。

※「エコ・クッキング」は東京ガス株式会社の登録商標です。

＜出張授業のお問い合わせ・お申し込み先＞ 京葉ガス 広報部 次世代教育担当  
電話：市川047-325-4517 ※受付時間：(平日)月～金曜日 午前9時～午後5時